

株主および投資家のみなさまへ

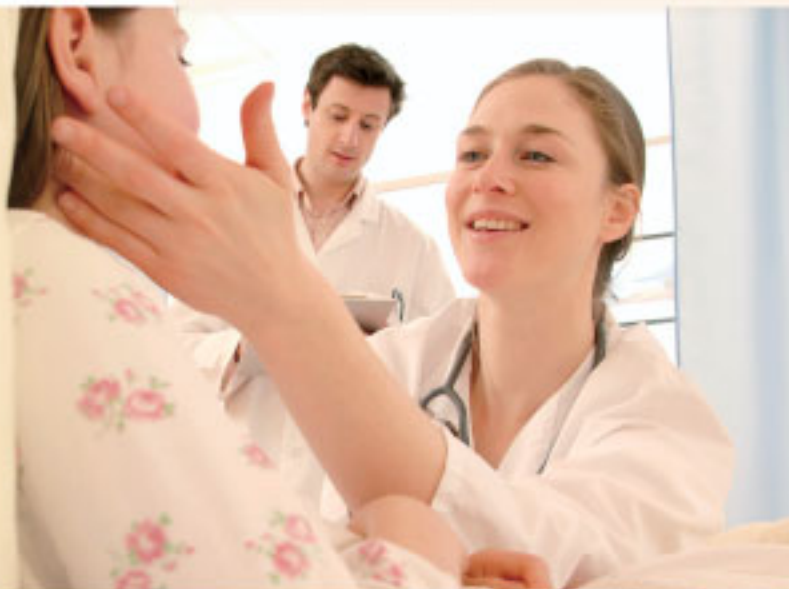
# Shimadzu Report

## 第145期 中間事業のご報告

平成19年4月1日～平成19年9月30日

株式会社 **島津製作所**

私たちが  
**島津**社は  
 科学技術  
 社会に貢献する  
 「人と地球の健康」  
 テクノロジーの原点として  
 1世紀にわたりのテーマ  
 を組み込んで、さら  
 更に社会への貢献を深めています。  
 分析・計測機器、  
 医用機器、航空機器、  
 産業機器 分野  
 の技術を融合・進化  
 させ、ライフサイエンス、  
 環境、半導体、フラッ  
 トパネルディスプレイ (FPD) 次世代  
 医療、新エネルギー  
 の分野を拡大  
 中期経営計画  
 グローバル企業  
 の夢を私たちの  
 技術、拓いて  
 まいります。



# 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに第145期上半期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)の中間事業のご報告をお届けいたしますので、よろしくご高覧賜わりますようお願い申し上げます。

平成19年12月

取締役社長 服部重彦

## Q. 当上半期の業績の概要は?

### A. 欧州・米州・アジアで海外売上高が増加し、売上・利益とも過去最高となりました。

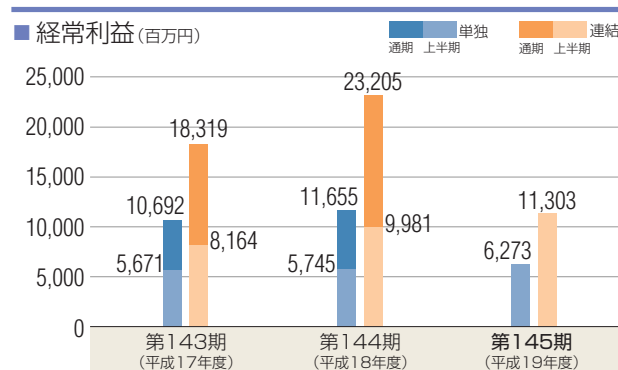
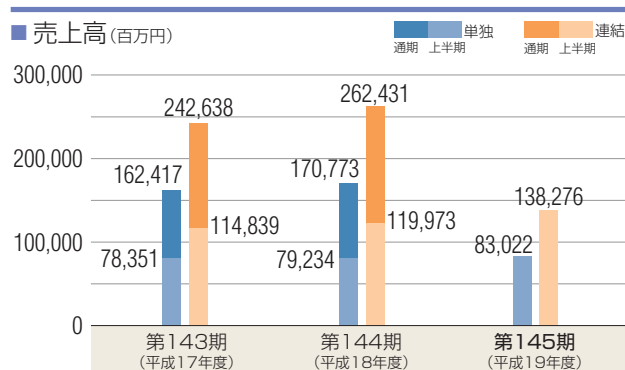
当上半期におけるわが国経済は、原油・素材価格上昇の影響があったものの、企業収益の改善を背景とした設備投資の増加などにより、景気は回復基調を維持しました。海外においては、米国経済はサブプライムローン問題に伴う住宅市場の低迷がみられるものの、個人消費や企業部門の設備投資に支えられ、概ね堅調に推移しました。また、欧州では景気は着実に回復しており、アジアでは中国等で景気拡大が続きました。

このような情勢のもとで、当社グループは、中期経営計画(平成17年4月から平成20年3月まで)の基本方針であるグローバル成長と生産・販売・サービス改革を中心とする事業構造改革を進めるとともに、顧客ニーズに対応した新製品の拡販に注力いたしました。

この結果、当上半期の売上高は1,382億7千6百万円(前年同期比15%増)となりました。また、海外売上高につきましては、557億7千8百万円(同26%増)となりました。

損益面につきましては、営業利益は124億9百万円(同10%増)、経常利益は113億3百万円(同13%増)、中間純利益は65億8千5百万円(同14%増)となりました。

中間配当金につきましては、1株につき4円とさせていただきます。



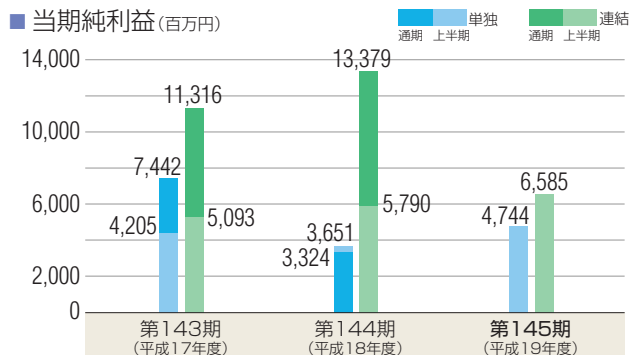


## Q. 今後の見通しは？

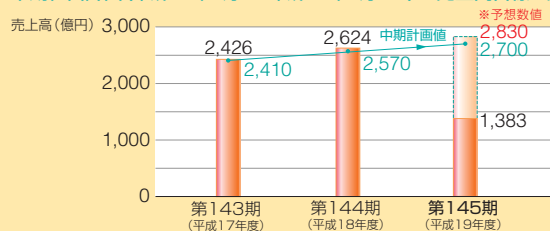
### A. 中期経営計画の最終目標に向かって、進んでいきます。

当下半期の世界の景気は、サブプライムローン問題や原材料高などの不安要素があるものの、基本的には引き続き堅調な推移となると見込んでいます。こうした経済環境のなかで、当社グループとしては、**中期経営計画**の最終年度目標を達成することを最優先として、事業を進めており、売上高、海外売上高比率とも**中期経営計画**目標を達成できる見通しです。

また、今後も成長を持続するために、次の3か年の中期経営計画を策定しております。



## 中期経営計画 (平成17年4月から平成20年3月まで) の売上高目標と実績

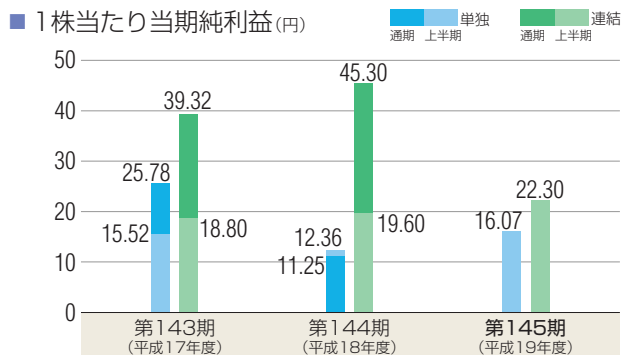


※第145期売上高予想2,830億円は、平成19年11月9日の中間決算発表時の予想です。

## Q. 中期経営計画の進捗状況は？

### A1. グローバル成長については、海外の売上が引き続き順調に伸びています。

欧米、アジアともに高い売上高の伸びとなっています。この3年間に欧州、インド、中近東などで海外拠点の新設や販路拡充などインフラ整備を進めてきましたが、これらの効果が業績の伸びとして現れてきました。中国市場においては、工場の排水や排ガスの分析装置が伸びています。食品などの輸入品に対する安全意識も高まっており、分析を通じて中国企業の環境対策や品質管理を支援するビジネスはまだまだ伸びると考えています。また、科学技術振興や医療体制の整備を進めるロシア、欧州の製造拠点となってきた東欧をはじめ、中近東やブラジルなど新興成長国での市場開拓にも注力しています。





## A2. アライアンスによる一層の成長を図っています。

三菱重工業からターボ分子ポンプ事業を譲り受ける契約を締結しました。当社のターボ分子ポンプの平成19年3月期実績の売上高は62億円で世界第3位のメーカーであり、重点成長機種と位置づけて事業拡大を図っています。今回の三菱重工業からの事業譲受により製品ラインアップを拡大して、平成22年度には現在の2倍以上の150億円の売上を目指します。(8頁をご参照)

また、医用機器事業においては、富士フィルムとのアライアンスにより事業拡大を図っています。当社は医用機器事業の重点戦略機種である直接変換方式フラットパネル検出器(FPD)・X線装置を、富士フィルムは画像処理装置・

ソフトウェアを相互供給し、高品位なFPD搭載デジタルX線診断装置を開発しました。これを両社の販売ネットワークを通じて、それぞれのブランドで販売します。この提携は、売上の拡大を図るとともに、生産台数を増やすことにより製造コストを下げることも狙いとしています。

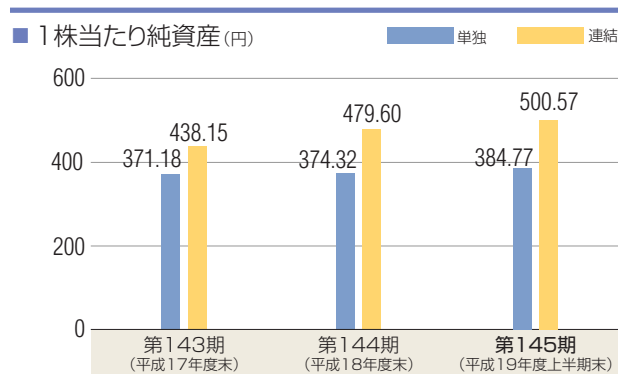
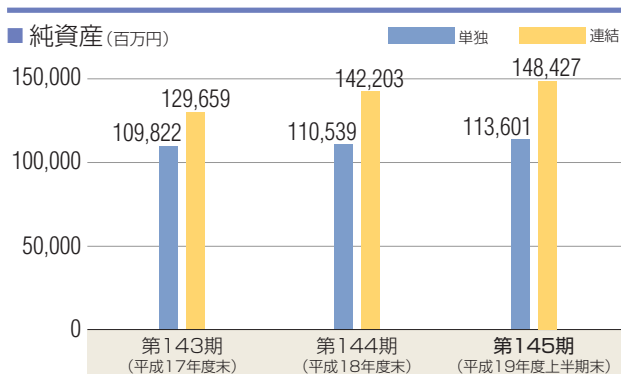
## A3. 事業構造改革も計画に沿って進めています。

生産改革では、内製化とプル型生産に取り組んでいますが、これまでの活動により新工場における組立職場の整備が進み、リードタイム短縮の効果が出てきています。今後も、お客様にこれらの成果がより多く届くように、物流改革と一体となって、島津のトータルサプライチェーンを整備します。

販売改革では、業種別グループの編成など販売体制の整備や重要顧客への取り組みの強化などを進めています。営業効率の向上のため、間接業務の集約も一部の支店から開始しています。

サービス改革では、修理への早期対応などのサービス品質の向上を図るとともに、保守契約の促進などサービス事業の拡大を図っています。この3年間の活動により、サービス会社の業績にもその効果が現れてきました。

これらの活動は、効果を高めるためには相互に連携して進める必要がありますので、今後も全社が一体となって取り組んでまいります。

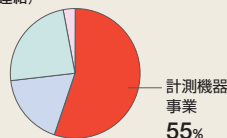


# 事業の概要

## 計測機器事業

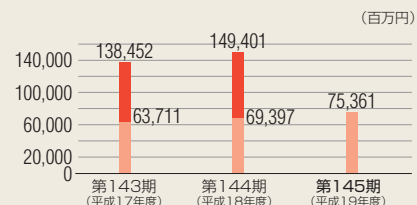
当上半期連結売上高  
**753億6千1百万円**  
(前年同期比9%増)

売上高構成比  
(連結)



売上高推移  
(連結)

通期 上半期



### 【概況】

- 国内市場は、化学・鉄鋼などの素材産業を中心に民間企業における設備更新需要が継続し、質量分析計や材料試験機などが堅調な動きとなりました。また電力プラントにおける排ガス測定装置の更新需要により、環境計測機器が好調でした。
- 海外市場は、クロマトグラフ、光分析装置、質量分析計などの需要が増加し、欧州および米州を中心に好調に推移しました。

### 主な製品

ガスクロマトグラフ、液体クロマトグラフ、質量分析計、光分析装置、表面分析装置、タンパク質解析装置、環境計測機器、材料試験機、非破壊検査機器、光学デバイス、レーザ機器、はかり



#### 紫外可視分光光度計

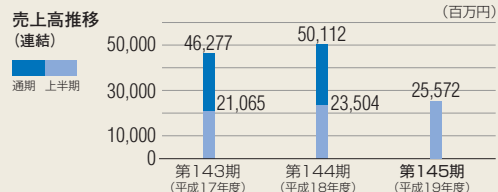
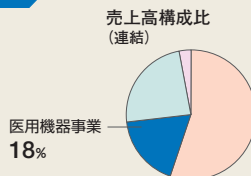
化学物質、金属、非金属などに可視光線や紫外線を当て、その吸収の度合いから成分量を測定する装置で、製薬、食品、化学、環境、ライフサイエンスなど様々な分野における研究・品質管理に利用されています。

### 【今後の事業展開】

- 国内市場は引き続き企業の研究開発や設備投資が堅調に推移する見込みであり、質量分析計、クロマトグラフ、光分析装置、環境計測機器などの販売に注力するとともに、新たなアプリケーション開発に努め、シェアの拡大を目指します。
- 海外市場においては、液体クロマトグラフや質量分析計を中心に、中東やインドでの販売力を強化するなど、グローバル体制を確立していくことにより全世界での拡販に努めていきます。
- 環境・安全性への関心は国内のみならず、海外でも中国などを中心に急速に高まっており、環境計測機器などの需要が大きく伸びることが予測されています。この分野に対応した新製品の投入や販売力・サポート力の強化を図ることにより売上の拡大を目指します。
- ライフサイエンス事業については、新たに発売した遺伝子の前処理装置やタンパク質解析システムの拡販に努めるとともに、病気の早期診断・治療のためのバイオマーカー探索研究を推進し、次世代医療に貢献する機器・システムの開発を目指します。

## 医用機器事業

当上半期連結売上高  
**255億7千2百万円**  
(前年同期比9%増)



### 【概況】

- 国内市場は、販売競争の激化により、X線画像診断システムの需要が伸び悩むとともに、ガン検診用のPETシステムの需要が減少したこともあり、売上全体は低調となりました。
- 海外市場は、欧州および米州でX線画像診断システムの需要を中心に好調に推移しました。

### 主な製品

診断用X線装置、PETシステム、医用X線CT装置、  
超音波画像診断システム、医療情報システム



直接変換方式FPDを搭載した  
据置型デジタル式汎用X線診断装置

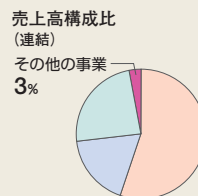
コストダウンを図るとともに少ないX線量でも高い分解能の画像が得られ、撮影後すぐに診断画像を表示できるなど、医師にも患者さんにもやさしいX線診断装置です。

### 【今後の事業展開】

- 大視野の直接変換方式FPD搭載のX線画像診断システムラインアップをさらに充実させることにより競争力の強化を図ります。
- マルチスライスCTスキャナを組み合わせた高性能型のPET-CTシステムで売上拡大を目指します。
- 他社とのアライアンスによる製品の相互供給、新製品開発、販売網の強化などをさらに充実させることにより事業拡大を図ります。
- 海外においては、引き続き需要が好調なX線一般撮影システムの拡販に努めるとともに、FPD搭載X線画像診断システムの販売にも注力していきます。

## その他の事業

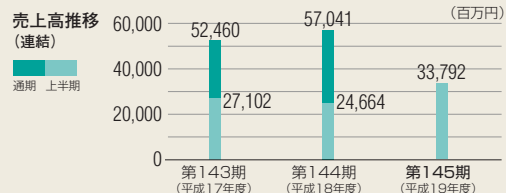
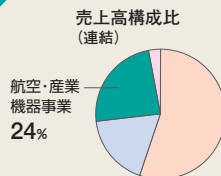
当上半期連結売上高  
**35億5千万円**  
(前年同期比47%増)



### 主な事業

不動産賃貸、不動産管理、ソフトウェア開発、製品設計、  
建設舗床業 等

当上半期連結売上高  
**337億9千2百万円**  
 (前年同期比37%増)



### 【概況】

- 航空機器は、国内市場においては補用部品などを中心に堅調に推移しました。海外市場についても民間航空機需要が回復し好調に推移しました。
- 産業機器は、国内市場は低迷したものの、海外市場はターボ分子ポンプ、ガラスワインダー、太陽電池成膜装置などの需要が増加し、中国を中心とするアジアおよび北米での売上が増加しました。

### 主な製品

- 航空機器：空調システム、飛行制御システム、ヘッドアップディスプレイ、ロケット用バルブ、航空機器機能試験装置
- 産業機器：ターボ分子ポンプ、液晶TFTアレイ検査装置、太陽電池成膜装置、プラズマCVD装置、液送機器、油圧機器



### 初飛行に成功した次期固定翼哨戒機

(防衛省 技術研究本部 ホームページより)

防衛省では、艦艇の監視などを目的とする次期固定翼哨戒機と物資輸送などを目的とする次期輸送機の開発が進められており、当社はエア・マネジメント・システムやフライトコントロール・システムなどの搭載機器の開発を担当しています。

### 【今後の事業展開】

- 航空機器については、当社が搭載機器の開発に携わった防衛省の新型航空機2機種を試作機が7月に完成し、1機種は9月に初飛行が行われました。今後の量産化に向けて品質・コストの改善作業に取り組んでいきます。またボーイング社から受注したB747-8型機用フラップ駆動システム用機器については、来年夏の納入に向けて製造を進めています。
- 産業機器については、太陽電池市場が急速に拡大していることから、太陽電池成膜装置のますますの需要が見込まれており、拡販を進めるとともに次期製品開発に注力します。
- 半導体市場は緩やかながら回復に向かい、また液晶市場では大型投資が見込まれるため、ターボ分子ポンプの需要が高まっています。この需要に対応すべく、今年中の新工場完成を目指して建設を進めています。

# トピックス

## 第145期上半期の主なトピックス

- 計測機器事業
- 医用機器事業
- 航空・産業機器事業

2007 (平成19年)

4月

- 世界最高の性能と使いやすさを両立させた精密万能試験機の最上位モデルAG-Xシリーズを発売

精密万能試験機  
オートグラフ  
AG-Xシリーズ



- 基礎研究、創薬を支援する次世代医療用分子イメージングによる実験小動物用PET装置を発売

実験小動物用PET  
システム  
Clairvivo PET  
(クレビボペット)



- 実験動物中央研究所と共同で、ガン転移の解明につながるタンパク質候補を発見

5月

- 10分の1ミリ以下の微小な気泡などの欠陥を見つけるフラットパネル検出器搭載型X線検査装置を発売

- 三菱重工業株式会社からのターボ分子ポンプ事業譲受について基本合意(8頁をご参照)

6月

- 急速に拡大する中国の排水規制市場に対応した新方式のオンラインUV計を発売
- 島津(香港)有限公司とジーエルサイエンス株式会社が共同で、分析機器用消耗品・前処理装置の販売合併会社を上海に設立

7月

- 富士フイルム株式会社と共同で、FPD・X線装置と画像処理装置の相互供給によるデジタルX線画像診断装置を販売
- 世界最高水準のビームクオリティーを実現した固体グリーンレーザーモジュールを発売

8月

- 高機能・低価格で、操作性・使い勝手のすぐれた電子上皿天びんの新シリーズを発売
- 操作性を向上し、設置スペースを15%削減したコンパクト型紫外可視分光光度計を発売(4頁をご参照)
- 完全自動化とランニングコスト4分の1以下を実現したマイクロチップ電気泳動装置を発売



マイクロチップ電気泳動装置  
MCE-202 MultiNA (マルチナ)

## 三菱重工業株式会社からターボ分子ポンプ事業を譲受

高成長市場で事業拡大を推進し、世界シェアNo.1を目指します。

当社は5月に、三菱重工業株式会社の持つターボ分子ポンプ事業を譲り受けることについて基本合意し、10月に最終合意に至り、現在では事業移転の準備を進めています。ターボ分子ポンプは、主に半導体製造工程などにおいて超高真空環境を作り出すために不可欠な装置で、製造ラインにおけるさまざまな装置に多数設置されています。また、最近では薄型大画面テレビ市場でも大型投資が予定されており、これらの製造装置にも不可欠な製品として需要が高まっています。

大容量タイプのターボ分子ポンプで強みを持つ三菱重工業株式会社の同事業を取り込むことにより、当社の製品ラインアップは大幅に充実することとなります。また現在当社三条工場内に建設中のターボ分子ポンプ新工場は本年12月竣工予定で、順次設備を整えて来年春から稼働を開始する計画です。これにより平成19年3月期で62億円のターボ分子ポンプ事業の売上高を、平成22年度には150億円にまで引き上げ、世界シェアNo.1を目指します。



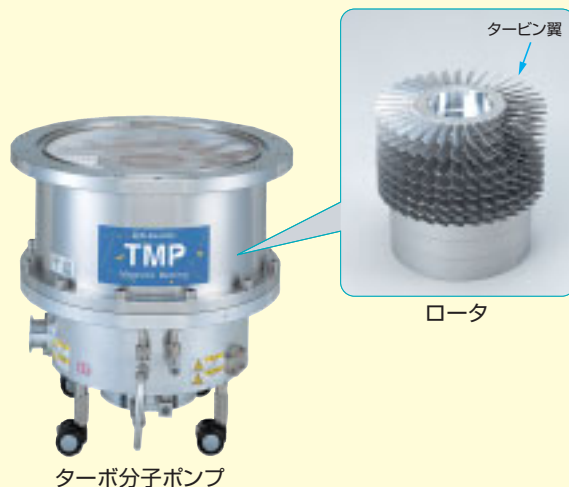
平成19年12月竣工予定のターボ分子ポンプ新工場  
鉄筋4階建て、延床面積 16,000m<sup>2</sup>

### ターボ分子ポンプとは？

百枚以上の細かなタービン翼が何層にも連なるロータを、1分間に数万回転もの高速で回転させることによって、翼の表面に衝突した気体分子を強制的にたたき出して排気する機械式の超高真空ポンプです。

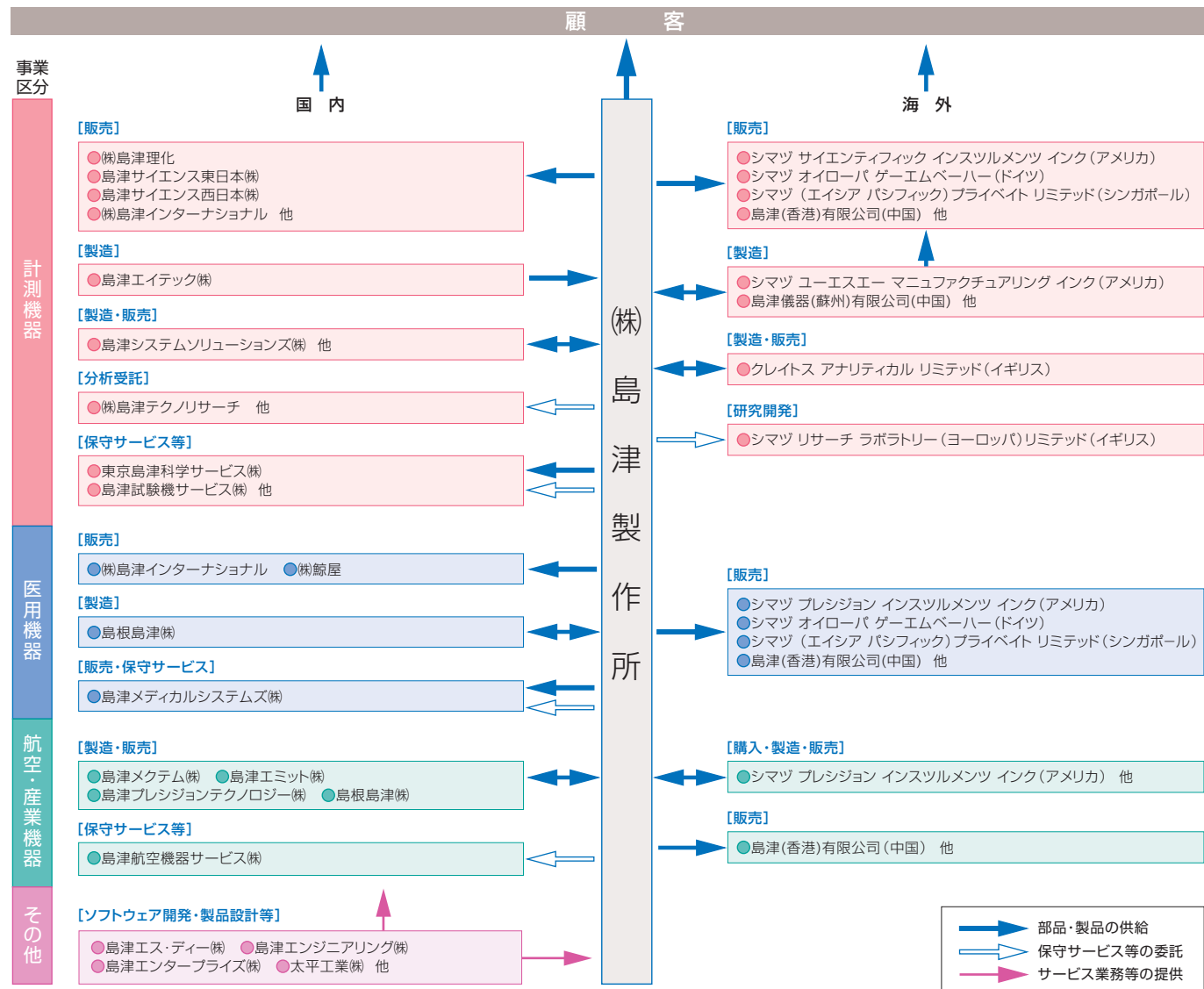
超高速回転させるタービン翼は破損を防ぐためにロータと一体である必要があり、工作機械を使って円柱状のアルミ金属のかたまりから数十時間もの時間をかけて超精密に削りだして製作します。

当社のターボ分子ポンプは、半導体製造工程において使用される特殊ガスによる腐食や高熱からタービン翼を守るため、独自のノウハウによる表面処理が施されており、高い動作信頼性を誇ります。



# 島津グループネットワーク

当社グループは、当社、子会社78社、関連会社4社（平成19年9月30日現在）によって構成され、計測機器、医用機器、航空・産業機器、その他の各事業分野で研究開発、製造、販売、保守サービス等にわたる事業活動を行っています。



# グループ会社紹介

## Vol.5

### シマヅ プレシジョン インスツルメンツ インク Shimadzu Precision Instruments, Inc. [SPI]



中期経営計画の基本方針である「グローバル成長」の実現に向け、海外市場での売上拡大を中心とする“グローバル化促進”に取り組んでいます。今回は、北米市場で航空・医用・半導体事業の拡大に努めているグループ会社をご紹介します。

#### Q. SPIはどんな会社？



**A.** 1966年に島津製作所サンフランシスコ事務所を開設して、航空機器事業部の米国拠点として活動を開始。その後、ロサンゼルスに移転しました。1979年に現地法人化してSPIとなり、1987年には医用機器の販売を開始し、また、1996年にはターボ分子ポンプの販売を開始しました。

現在は社内カンパニー制度を採用して、Shimadzu Aircraft Equipment, USA Company (SAE), Shimadzu Medical Systems, USA Company (SMS), 及び Shimadzu Semiconductor Equipment, USA Company (SSE) の3グループで構成され、それぞれ航空機器事業、医用機器事業及び半導体機器事業の北米拠点として米国市場における事業拡大と顧客サービスの充実に努めています。

#### Q. 今後の事業展開は？



**A.** SAEは、2001年から開始した民間航空機用ギアボックス、電動アクチュエータの現地組立に加え、2008年からは油圧機器の現地組立も開始する予定で、これらの製品のエアライン各社への修理・オーバーホール事業の展開も含めて更なる飛躍を目指します。

SMSは、医療用画像診断装置のデジタル化の流れに沿って、透視、撮影からポータブル型に至るまでのフルデジタルX線装置の品揃えで、高品質・使い易さ・迅速で確かなサービスをモットーに顧客要望を満足させ、島津医用機器の北米におけるシェア拡大に努めます。

またSSEは、ターボ分子ポンプの主要顧客である世界有数の半導体製造装置メーカーが揃う最重要市場のシリコンバレーを拠点にして、島津製作所が世界一のターボ分子ポンプのサプライヤーになることを目指します。

- 資本金：10.2百万ドル
- 年間売上高：123百万ドル(2006年12月期)
- 拠点：カリフォルニア州トーランス市、サンタクララ市、テキサス州ダラス市、オースティン市、アリゾナ州フェニックス市、ワシントン州シアトル市、日本(京都・東京・岐阜)



SPI本社(カリフォルニア州トーランス市)



# 連結決算の概要

## 連結貸借対照表

(百万円)

	当上半期末 (平成19年9月30日)	前期末 (平成19年3月31日)		当上半期末 (平成19年9月30日)	前期末 (平成19年3月31日)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	189,758	191,282	流動負債	108,738	96,480
現金預金	21,373	27,626	支払手形・買掛金	52,401	55,726
受取手形・売掛金	88,854	89,151	短期借入金	6,878	7,460
たな卸資産	67,277	64,017	1年内償還予定社債	15,000	—
その他	12,987	11,368	その他	34,457	33,293
貸倒引当金	△ 734	△ 881			
固定資産	107,239	103,801	固定負債	39,832	56,399
<b>ポイント1</b> 有形固定資産	(66,208)	(63,669)	社債	10,000	25,000
建物・構築物	32,271	31,965	長期借入金	2,689	3,092
機械・運搬具	5,993	5,569	退職給付引当金	19,841	20,711
土地	18,889	18,907	役員退職慰労金引当金	207	687
その他	9,054	7,226	その他	7,093	6,908
無形固定資産	(4,839)	(4,009)	負債合計	148,571	152,880
投資その他の資産	(36,192)	(36,121)			
投資有価証券	15,524	15,535	<b>純資産の部</b>		
長期貸付金	1,001	539	<b>ポイント2</b> 株主資本	142,960	137,814
その他	19,938	20,307	資本金	26,648	26,648
貸倒引当金	△ 272	△ 260	資本剰余金	35,188	35,188
			利益剰余金	81,616	76,396
			自己株式	△ 493	△ 419
			<b>ポイント2</b> 評価・換算差額等	4,829	3,815
			その他有価証券評価差額金	5,167	5,464
			為替換算調整勘定	△ 338	△ 1,649
			少数株主持分	637	573
資産合計	296,998	295,083	純資産合計	148,427	142,203
			<b>ポイント2</b> 負債・純資産合計	296,998	295,083

### ポイント1 有形固定資産の増加

有形固定資産の主な増加要因は、生産能力増強のための設備投資です。

### ポイント2 自己資本比率の向上

利益剰余金の増加などにより、自己資本比率が2ポイント向上し、50%となりました。

### ポイント3 中間期の過去最高を更新

連結売上高は前年同期に比べ15%増加し、中間期で過去最高の1,383億円となり、営業利益124億円、経常利益113億円、中間純利益66億円と全て過去最高額を更新しました。

## 連結損益計算書

(百万円)

	当上半期 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)	前上半期 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)
ポイント③ 売上高	138,276	119,973
売上原価	84,556	71,621
販売費・一般管理費	41,310	37,100
ポイント③ 営業利益	12,409	11,251
営業外収益	985	793
営業外費用	2,091	2,063
ポイント③ 経常利益	11,303	9,981
特別利益	256	282
特別損失	307	766
税金等調整前中間純利益	11,251	9,498
法人税・住民税・事業税	4,018	2,928
法人税等調整額	622	749
少数株主利益	23	29
ポイント③ 中間純利益	6,585	5,790

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	当上半期 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)	前上半期 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,712	4,312
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,557	△ 4,585
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,936	△ 7,229
現金及び現金同等物に係る換算差額	592	△ 16
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△ 6,188	△ 7,519
現金及び現金同等物の期首残高	26,906	31,926
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	106	110
現金及び現金同等物の中間期末残高	20,823	24,517

## 連結株主資本等変動計算書

(百万円)

当上半期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	26,648	35,188	76,396	△ 419	137,814	5,464	△ 1,649	3,815	573	142,203
当中間期の変動額										
剰余金の配当			△ 1,328		△ 1,328					△ 1,328
連結子会社増加による利益剰余金減少高			△ 37		△ 37					△ 37
中間純利益			6,585		6,585					6,585
自己株式の取得				△ 73	△ 73					△ 73
株主資本以外の項目の当中間期の変動額(純額)					—	△ 297	1,311	1,014	64	1,078
当中間期の変動額合計	—	—	5,219	△ 73	5,145	△ 297	1,311	1,014	64	6,223
平成19年9月30日残高	26,648	35,188	81,616	△ 493	142,960	5,167	△ 338	4,829	637	148,427

# 単独決算の概要

## 貸借対照表

(百万円)

	当上半期末 (平成19年9月30日)	前期末 (平成19年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	118,158	124,281
現金預金	3,741	5,038
受取手形	19,452	21,656
売掛金	42,964	45,672
たな卸資産	40,055	39,885
その他	12,167	12,263
貸倒引当金	△ 223	△ 236
<b>固定資産</b>	108,236	104,744
<b>有形固定資産</b>	(57,570)	(55,304)
建物・構築物	28,501	28,257
機械・器具等	9,385	8,829
土地	18,169	18,169
その他	1,514	48
<b>無形固定資産</b>	(3,978)	(3,213)
<b>投資その他の資産</b>	(46,686)	(46,226)
投資有価証券	14,831	14,954
関係会社株式	13,774	13,507
長期貸付金	1,130	678
その他	17,195	17,309
貸倒引当金	△ 245	△ 225
<b>資産合計</b>	226,394	229,025

## 負債の部

	当上半期末 (平成19年9月30日)	前期末 (平成19年3月31日)
<b>流動負債</b>	81,406	70,682
支払手形	1,791	4,297
買掛金	34,846	36,408
短期借入金	8,063	8,177
1年内償還予定社債	15,000	—
未払金	12,592	9,992
その他	9,112	11,806
<b>固定負債</b>	31,386	47,803
<b>社債</b>	10,000	25,000
長期借入金	191	229
長期未払金	463	—
長期預り金	6,303	6,637
退職給付引当金	14,427	15,344
役員退職慰労金引当金	—	592
<b>負債合計</b>	112,793	118,485
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	108,470	105,129
<b>資本金</b>	26,648	26,648
<b>資本剰余金</b>	35,188	35,188
利益剰余金	47,126	43,710
自己株式	△ 493	△ 419
<b>評価・換算差額等</b>	5,130	5,410
<b>純資産合計</b>	113,601	110,539
<b>負債・純資産合計</b>	226,394	229,025

## 損益計算書

(百万円)

	当上半期 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)	前上半期 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)
<b>売上高</b>	83,022	79,234
売上原価	56,278	53,053
<b>売上総利益</b>	26,744	26,181
販売費・一般管理費	21,453	20,898
<b>営業利益</b>	5,290	5,282
<b>営業外収益</b>	3,174	2,301
<b>営業外費用</b>	2,192	1,838
<b>経常利益</b>	6,273	5,745
特別利益	246	260
特別損失	290	729
<b>税引前中間純利益</b>	6,229	5,277
法人税・住民税・事業税	1,072	713
法人税等調整額	412	912
<b>中間純利益</b>	4,744	3,651

# 会社概要 (平成19年9月30日現在)

## 会社概要

商号 株式会社島津製作所  
SHIMADZU CORPORATION  
創業 明治8年(1875年)3月  
設立 大正6年(1917年)9月  
本社所在地 〒604-8511  
京都市中京区西ノ京桑原町1番地  
電話075-823-1111(代表)  
資本金 26,648,899,574円  
従業員数 単独 3,142名 連結 9,234名  
連結子会社 国内32社 海外39社

## 主要な事業所

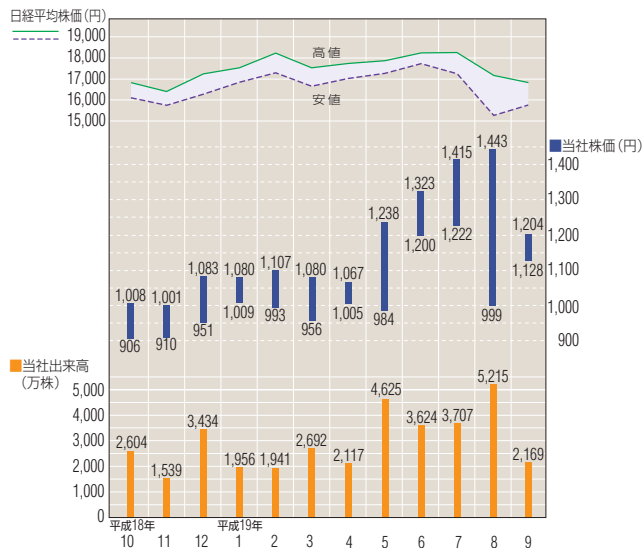
本社 京都市中京区西ノ京桑原町1番地  
支社 東京/関西(大阪市)  
支店 京都/九州(福岡市)/名古屋/横浜/  
北関東(さいたま市)/神戸/つくば/広島/  
東北(仙台市)/札幌/四国(高松市)/静岡  
工場 三条/紫野(いずれも京都市)/厚木(厚木市)/  
秦野(秦野市)/瀬田(大津市)  
研究所 基盤技術研究所(京都府精華町/東京都千代田区)  
田中耕一記念質量分析研究所(京都市)

# 株式情報 (平成19年9月30日現在)

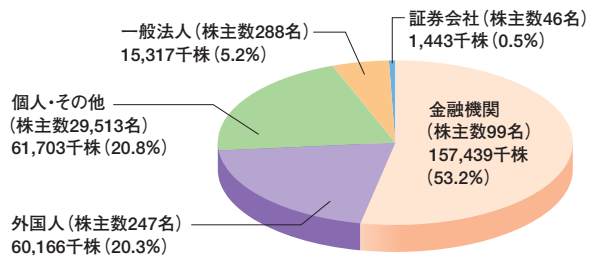
## 株式の状況

株主数…………… 30,193名  
発行済株式総数…………… 296,070,227株

## 株価の推移 (東京証券取引所)



## 株式の所有者別分布



## 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 [信託口]	26,603	9.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 [信託口]	21,574	7.31
明治安田生命保険相互会社	21,130	7.16
東京海上日動火災保険株式会社	7,687	2.60
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,672	2.60
太陽生命保険株式会社	7,411	2.51
日本生命保険相互会社	6,182	2.09
全国共済農業協同組合連合会	5,847	1.98
株式会社京都銀行	4,922	1.67
三菱UFJ信託銀行株式会社	4,605	1.56

\* 出資比率は、自己株式(824,722株)を控除して計算しております。

# 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日 (その他必要ある場合は、公告のうえ設定します。)
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ ( <a href="http://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html">http://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html</a> ) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によ って電子公告による公告をすることができない場合は、 京都新聞および日本経済新聞に掲載します。

上場証券取引所	東京・大阪
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪府北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

当社株式に関するお問合せは、株主名簿管理人あてにご照会ください。

## 株式に関する お問合せ

〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話(通話料無料)  
**0120-094-777**  
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

## 各種手続き 用紙のご請求 (24時間受付)

電話(通話料無料・音声自動応答)  
**0120-244-479**(東京)  
**0120-684-479**(大阪)  
インターネットホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

## 島津創業記念資料館のご案内

昭和50年、創業100周年記念事業の一環として日本の科学技術研究の一助になればとの願から、当社創業の地、京都木屋町二条に開設。国産最古の顕微鏡をはじめ、創業当時の理化学機器や初期の医用X線装置を中心に、文献・資料など約600点を展示、一般公開しています。今年7月14日、入館者が開設以来20万人となりました。



**島津創業記念資料館(国の登録有形文化財)**  
建物は、創業当時のままの姿を残しています。

- 休館日 / 水曜日、年末年始
- 入館時間 / 9:30~16:30(閉館17:00)
- 入館料 / 大人300円 高・中学生200円  
団体割引(20名以上20%引)

- 市バス 市役所前下車徒歩約2分
- 京阪電車 三条下車徒歩約7分
- 地下鉄東西線 市役所前下車徒歩約2分
- 京都駅からのアクセス  
市バス:205(四条河原町方面)、17系統乗車  
タクシー:約20分



〒604-0921 京都市中京区木屋町二条南  
●TEL/075-255-0980 ●FAX/075-255-0985  
●<http://www.shimadzu.co.jp/forest/>

## 島津創業記念資料館 株主様無料入館券

本券1枚につき3名様まで無料で入館いただけます。  
(平成20年9月末まで有効)

 **SHIMADZU**  
<http://www.shimadzu.co.jp>

●再生紙を使用しています。  
DP050-0145A  
0220-11701-32B-NS